

# TEC-FORCE (緊急災害対策派遣隊 その2)

ドボクの面白さを、古いもの、新しいもの、消えゆくもの、身近なものなどを通じて広くお伝えします。ウェブサイトとの連動企画です!

【絵】モリナガ・ヨウ 【文】溝淵 利明



**今** 回は、前回に引き続きTEC-FORCE (緊急災害対策派遣隊) について紹介します。今回は、船橋防災センターが保有する設備、機材について取材しましたが、今回は災害の現場にいち早く赴き、現地の被害状況などの映像を対策本部に伝達する災害対策用ヘリコプターについて取材しました。

国土交通省では、災害時の被災状況調査を目的としたヘリコプターを全国に8機配備して、関東地方整備局には2018年4月から新型のヘリコプターAW139「あおぞら号」が導入されています。その最新鋭機を取材するために、船橋から新木場にある東京ヘリポートに向かいました。

新しく導入したAW139 (Leonardo社製 AW139) は、それまでのBell 214 STに比べて最大航続時間が約1.4倍 (航続距離が約1.25倍) となり、守備範囲が拡大しただけでなく、被災地の上空により長くとどまることが可能となりました。また、衛星通信「ヘリサット」を導入し、衛星回線を使用することによって、従来のように地上の基地局を経由して映像伝送することがなくなったため、山岳部などの電波遮蔽の多い場所や基地局から遠い離島などの通信困難地域がなくなりました。また、左右にアンテナを装備 (デュアルアンテナシステム) することで、通信衛星との死角をなくしています。

東京ヘリポートの格納庫で整備中の「あおぞら号」を間近で見ることができ、操縦席にも座ることができたので、メカ好きにはたまらない取材となりました。

モリナガ・ヨウ 1966年生まれ。現場見学だけは経験値の高い文系イラストレーター。『築地市場 絵でみる魚市場の一日』で第63回産経児童出版文化賞受賞。みぞぶち・としあき 法政大学デザイン工学部教授、専門はコンクリート材料、維持管理 (非破壊検査) 等、モットーは「コンクリートの一生を考える」。

## 取材「こぼれ話」

今回は、国土交通省関東地方整備局が保有する災害対策用ヘリコプター「あおぞら号」の取材を行うために、新木場にある東京ヘリポートに行きました。事務所で担当の方から災害対策用ヘリコプター (全国の各地で各1機 (計8機) 保有しているそうです) の概要と「あおぞら号」の特徴について説明を受け、格納庫に向かいました。格納庫内には、いろいろなヘリコプターが整備などを受けていて、コードブルーの名称で有名なドクターヘリもありました (テレビで見ると同じで何かすく興奮しました)。

「あおぞら号」 (各地整備局が保有するヘリコプターには名前がそれぞれ付いていて、北海道開発局が「ほっかい号」、四国地整が「愛らんど号」など) は、2年前に新機種であるAW139に更新され、航続時間が長くなり、衛星通信「ヘリサット」の導入とデュアルアンテナシステムを搭載することで、どんな場所からも現場映像をリアルタイムで送ることが可能になったそうです。また、AW139は2基のターボシャフトエンジンを搭載した双発ヘリコプターであり、何が起るか分からない災害現場でも十分対応可能な装備となっていることに、ただただ感心するばかりの取材でした。

(溝淵利明)

